平成28年度　町政執行方針

向山富夫 町長

わが国の経済状況は「大胆な金融政策」「機動的な財政政策」「民間投資を喚起する成長戦略」を柱とする経済財政政策の推進により緩やかな回復基調にあるといわれていますが、いまだ個人消費の回復も見られず、加えて地域間でのばらつきや設備投資などの動きも弱く、特に地方においては経済環境の厳しさが続いている状況です。

当町においても、地方税収入の伸びが見込めない中、歳入で大きな比率を占める地方交付税において一定程度の減額が避けられない状況です。

本年度予算については、私がめざす「町民の皆さんが安心して住み続けられるまちづくり」を念頭に、これまでの課題への対応をはじめ、それぞれの事業の緊急性や優先性などを十分考慮し、今後見込まれる財政需要への財源確保を見極めつつ編成を行いました。

人や地域とつながりのある暮らしづくり

一番身近な消費者である町民の皆様の地元農畜産物に対する信頼や安心感を高めるため、さまざまな機会を通じて地域農業や地元生産物への理解を深めていただくことに努めるとともに、生産者が取り組む消費者などとの交流・販売活動にも支援を行います。

また、生産者による直売や原料の加工など、活発化している高付加価値化の取り組みが安定した経営につながるよう仕組みづくりや制度活用の情報提供を行い、6次産業化の創出に努めるほか、これらの取り組みが町内他業種との連携へ広がるよう支援します。

町内の農業者が製造する加工品

穏やかに安心して過ごせる暮らしづくり

高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築を図り、来年度から始まる新しい総合事業へ着実に移行できるよう取り組む一方、昨年4月にスタートした子ども・子育て支援新制度により、本年4月から3施設が幼保連携認定こども園に移行することから、円滑な移行を図り、施設の適正な運営と子どもの教育・保育の充実に努めます。

また、本年度を初年度とする「商業振興計画」を踏まえ、商店街のにぎわい復活をめざし、消費者のニーズ、時代に対応した商業モデルの構築、事業改善のための個店の取り組みや店舗改装など、商業基盤の強化などに対し、商工会と連携して支援を行います。

快適で楽しく潤いある暮らしづくり

町独自に追加実施していた特定健康診査項目に加え、慢性腎臓病対策として昨年から対象を被扶養者にも拡大した早期診断マーカー（アルブミン尿検査・血清クレアチニン）をはじめ、後期高齢者健康診査では今年度から心電図検査と低栄養検査（貧血検査）を実施して重症化・介護予防を図るなど「健康づくり推進のまち」宣言にふさわしい取り組みを進めます。

また、地域の活力創生を図るため、このまちの恵まれた自然や食料生産力、心豊かな人材など限りない潜在力を最大限に発揮し結集できる、複合的な機能を持つ新たな拠点づくり整備に向けた準備に着手します。

地域の宝を守り・育み・活用できる暮らしづくり

十勝岳ジオパーク構想については美瑛町と設立した推進協議会を中心に、十勝岳の活動により造り出された大地の遺産の保全に努め、火山とともに暮らしてきた歴史や人々の知恵を知り、産業、観光、教育など広く地域振興に生かしていくことを念頭に、関係者の意見を集約し、地域へのPRも充実させながら、認定申請に向けた取り組みを主体に進めます。

激しく噴煙を上げる62-2火口

誇りと責任・役割を分かちあえる暮らしづくり

町税の適正な課税と納期内納税の推進に努め、滞納者に対しては適切な収納対策を進めるとともに、町の債権についても納期内納付を励行し、債権管理の適正化を進めるため、債権管理条例の制定について検討します。

また、質の高い行政運営をめざして職員教育や組織機構の検証などを行い、行政組織の充実、改善に取り組むとともに、組織力の向上につながるような人事評価制度の構築に向け今年度、管理職を対象にスタートします。

平成28年度　教育行政執行方針

服部久和 教育長

近年、我が国では少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、IT技術の急速な拡大、グローバル化の進展など、教育を取り巻く環境は急激に変化を続けています。

そうした中「人と人との支え合い」「ふるさとを愛する心」「子どもたちの自主的な行動」「優しく人を思いやる心」などは、教育がめざす原点であると考えています。

そのため「上富良野町教育振興基本計画」「第8次社会教育中期計画」の着実な実行とともに、「町教育大綱」の重点施策を積極的に推進し、「明るく、笑顔があふれる教育行政」に取り組んでいきたいと考えています。

また「総合教育会議」を通して、町長と教育委員会が教育に対する思いを共有しながら、教育行政の推進を図っていきます。

学校教育の推進

昨年度の全国学力・学習状況調査は国語、算数・数学に理科を加えて実施され、小学校では正答率で全国平均を下回りましたが、中学校では全国平均より高い傾向が続いています。

各学校においてはさまざまな検査の分析から「確かな学力の育成プラン」に基づき学習サポートを強化するとともに、学習規範や学習の方法、発展的な学習の指導を継続して進めます。

全国体力・運動能力等調査では、小・中学校の男女ともに体力合計点で全国平均を上回っており、質問紙でも「運動やスポーツが好き」な子どもたちが全国平均を大きく上回っています。

健康でたくましい体をつくるには正しい生活習慣と食生活を身に付けることが重要なことから、保健福祉課の食育推進計画を踏まえ、学校や家庭などの協力を得ながら健康な体づくりの指導を推進します。

全国的にいじめや不登校、虐待、自殺、体罰、ネットトラブルなどの問題が後を絶ちません。本町では学校、家庭、地域と関係機関の連携により事例は少ない状況ですが、それぞれ身近な問題であるという強い認識を学校全体で共有するとともに、今年度「SOS相談窓口（仮称）」を設置し、相談体制の充実を図ります。

教育環境の整備では上富良野中学校管理・普通教室棟の耐震化と大規模改修工事の完成、特別教室棟の改築・改修、パソコン機器更新のほか、上富良野西小学校のバックネット改修、東中小学校の暖房機更新を実施します。

英語指導助手のブライアン

国際理解教育では、友好都市のカナダ・アルバータ州カムローズ市からの英語指導助手に代わり、昨年8月から公募による英語指導助手を上富良野中学校に配置して英語に慣れ親しむ教育を進めていますが、本年度は上富良野小学校にも配置し、2名の指導体制で外国語教育の充実を図ります。

社会教育の推進

町民一人ひとりに生涯にわたり自主的に学ぶ機会を提供し、町の社会教育基本方針に掲げる「豊かな心と健やかな体を育み、うるおいのある地域づくりをめざす生涯学習」の推進に向け取り組みを進めます。

高齢者教育では「いしずえ大学」に新たに「同窓科」を設け、健康で明るい生活を築く学びの機会を拡充し、生きがいづくりと社会貢献活動への参加促進を図ります。

本年度は十勝岳大正爆発90周年にあたることから、過去の噴火の歴史をまとめた回顧誌発行、三浦綾子記念文学館などで構成する実行委員会による小説「泥流地帯」「氷点」「塩狩峠」の関連事業で、町内で実施される取り組みに対し支援を行います。

社会教育施設の整備としては、町民の社会教育活動の拠点である公民館のトイレ改修のほか、日東会館の屋根塗装などを実施します。

青少年教育については、青少年国際交流事業として3年ごとに実施している友好都市、カナダのカムローズ市へ中・高校生派遣を行い、国際性豊かな人材の育成を図ります。

また、十勝岳の自然豊かな地域素材や人材を生かすとともに、家庭、学校、地域が一体となった教育活動を大切にし「次代を担う豊かな人づくり」の推進に全力で取り組んでいきます。

前回の青少年国際交流事業

ここに掲載しているのは抜粋です。全文は町の行政ホームページか、役場1階町政情報提供コーナーでご覧ください。

平成28年度予算の内容は、別冊「知っておきたいことしのしごと」をご覧ください。